

# 山積する課題 解決への展望

よ り 2022年(令和4年)1月15日 (2)

## 2022年を迎えて

2021年は、預託法・特商法の改正、デジタル庁の創設などがありました。また、新型コロナウイルス感染症が私たちの暮らしに大きな影響を及ぼしました。今年4月からは成年年齢が18歳に引き下げられることから若者の消費者被害の増加が懸念されています。さらに、SDGsや脱炭素に向けた対応が求められるなど、消費者問題には課題が山積しています。新年を迎え、各界の方々に寄稿いただきました。

### 私達の生活は大きく

### 変わっていくのだろうか

宇都宮大学 松岡 猛

また新たな年を迎えました。21世紀になり早くも四半世紀が経過する時が近づいていますが、今までは全く異なった社会が訪れるのではないかと不安と期待が交錯しています。

百年前の20世紀初頭には科学技術の発展で19世紀には想像もできなかった生活が驚くべき速さで実現しています。1903年ライト兄弟が30mの初飛行を成し遂げて後1927年には既にリンドバークによる単独大西洋横断が成功しています。そのほか電球、電話、映画、自動車等の急速な普及には目を瞠るものがありました。

これに対して、21世紀になつてから2019年までは、世の中、遅々として変わらない日々の連続ではないかと感じていました。しかし、2020年にCOVID-19のため状況が一変し、この22年間の変化をあらためて振り返ると、私達は大きな変革の

真ただ中においてそれに私には気がなかつたのではなかったかと認識を新たにしました。大きな変化はインターネットに大きく依存するようになったこととデジタル処理が進んだことではないでしょうか。全ての個人がスマホを持ち、事あるごとにそれ(あるいは背後にあるAI)に相談しているという事実が端的に顕れています。カーナビ無しでは車の運転は全く無理となり、スマホを家に置き忘れ外出すると世界から隔絶された不安感を抱くのは私だけでしょうか。また、社会全体が温暖化防止を第一とした行動様式へと移行しています。加えて、COVID-19がより大きな変革を強制しています。海外への渡航は困難をきわめ、自宅周辺での生活が主となり、海外からの観光客が溢れかえっていた日常風景が一変しました。一方、職場へ出勤しなくてもリモートで勤務ができ、Zoom等による遠隔会議にも慣れ、それらが

いかに便利で必要なものであるかが理解されて来たのではないのでしょうか。今始まりつつある変化の先にある生活を私なりに思い描いてみると次のようになります。高原の林間(あるいは潮風の心地よい浜辺)に住み、職場への出勤は必要最小限でリモートでの仕事が主流となる。打ち合わせ、各種会議・委員会はホログラフィー技術を使ったメタバースで実施。外出は完全自動運転のEV車で静かに読書しながら、日用品はドローンによる配達で今以上に迅速に届けられる。現金、カード、暗証番号は全てなくなり、顔認証か、掌紋認証あるいはそれらの組み合わせで、買い物、チケット、各種届け出を済ませることができる。

現在の大きな変革はこのような方向へ向かっているのではないかと思っていますが、人と人が互いを理解し合うつながりをいかに維持発展させていくかが問題だと思います。

(※オンライン上の仮想空間)